



マヌルネコ

H I G A S H I Y A M A



ひがしやま 75

名古屋市東山動植物園情報誌



東山動植物園
Higashiyama
ZOO & BOTANICAL
GARDENS



オオアリクイの アイリスが来園しました

今年9月に江戸川区自然動物園からオオアリクイのアイリス(メス)が来園しました。北園アメリカゾーンのオオアリクイ舎で公開中です。アイリスの転入によりオオアリクイは2頭の飼育展示となります。

オオアリクイはその名のとおおり、アリ塚をつくる地上性のシロアリを食べます。その食性のため、アリ塚を崩す大きな爪やアリをなめとるための長い舌を持っており、その独特な特徴から中南米を代表する動物種として知られています。

アイリスは昨年生まれで来園時はまだ1歳になったくらいでしたが、当園で飼育しているエミと比べても遜色ないほど、大きく立派です。新たな環境のなかでも盛んに探索する様子が見られています。若くて活発なことから、これから様々な魅力を引き出していければと思います。ぜひ会いに来てください。

(飼育第二グループ 佐橋)



Contents

- | | |
|--|--|
| 00 動物園トピックス
「オオアリクイのアイリスが来園しました」 | 09 東山植物園のレッドリスト植物Vol.29
「ハギクソウ」 |
| 01 動物園長のエッセイ
「シマウマの縞模様」 | 10 植物園 冬の花だより
「冬のおすすめ植物」 |
| 02 飼育レポート
「動物たちの新生活」 | 11 植物管理人だより
「オガサワラグワの実りの季節です」
「冬のバラ園」 |
| 04 飼育だより | 12 植物園長のエッセイ
「桶(おけ)と樽(たる)」 |
| 06 動物病院日誌 Vol.74
「冬といえば鳥インフルエンザ」 | 13 植物園トピックス
「植物園講習会「身近な自然を見つめよう(秋編)」を開催しました」 |

表紙／マヌルネコ (*Otocolobus manul*)

2025年5月に生まれた3頭のマヌルネコがまだ幼い時期に撮影した写真です。成獣とは異なる愛らしさの中にも、厳しい環境で生きる捕食者としての鋭い眼差しが垣間見えます。
(文／江口 撮影／川上)

東山動物園サポーター募集中!!

動物園サポーター制度は、動物たちが豊かで充実した生活を送ることができるように、飼育環境改善や動物福祉などを資金面からご支援いただくものです。

サポーターの区分と金額	個人	大人 3,000円以上 中学生以下 1,000円以上	サポーターの方に動物や東山動物園をもっと知っていただくために…	① 動植物園情報誌「ひがしやま」をお送りします。(4回) ② サポーターの方を対象にサポーター限定イベントを開催します。
	法人・団体	10,000円以上		

個人10,000円以上、法人・団体50,000円以上ご支援いただいたサポーターは、氏名、法人・団体名を園内に掲示することができます。

申込方法

- 動物園内で手続きをしていただく場合
- 郵便振込で手続きをしていただく場合

動物会館図書室で申込書を記入の上、寄付金をお支払いください。

振込用紙をお送りしますので、動物園サポーター事務局までご連絡ください。
サポーター事務局／公益財団法人東山公園協会 動物会館 TEL052-782-2111(内線340)



動物園長の エッセイ

しまもよう シマウマの縞模様

今年のイグ・ノーベル賞は、愛知県農業総合試験場と京都大学の共同チームが生物学賞を受賞されました。その内容は「シマウマ模様の塗装による牛の吸血昆虫対策」。牛にシマウマのような「縞模様」を体に塗装することで、サシバエやアブなどによる被害を軽減させる効果があることを解明したというものです。牛を飼育する畜産農家では吸血昆虫の被害は大きな課題ですので、画期的な研究成果だと思います。

シマウマの縞模様の理由はまだはっきりとは解明されておらず、科学者の中でも諸説あります。目の錯覚を引き起こすカモフラージュ、ライオンなどの捕食者からの狙いを定めにくする効果、個体同士の識別、日ざしの強いサバンナでの体温調節などが考えられてきました。最近では「虫よけ効果」が最も有力とされ、白と黒の部分の温度差により生じた小さな空気の渦で皮膚の温度が下がり、虫を寄せ付けない効果があるというもの。受賞した研究員はテレビ番組でシマウマの模様に虫よけ効果があるとの仮説を目にした後、東山のチャップマンシマウマを観察する中で、そのアイデアを思い付いたそうです。

東山でも、秋から冬にかけてインドサイやアジアゾウなどでもサシバエによる被害を受け、ひどい時には皮膚がただれてしまうこともあります。飼育担当者たちは虫の粘着テープや捕虫器を設置するなどで対応していますが、なかなか苦戦し良い策が見つかりません。この研究のようにゾウやサイを縞模様に色塗りするわけにもいかず、他にもっと効果的な方法を見つけてほしいと、期待しているところです。

来年は午（うま）年です。動物園や生物学研究の分野でも、草原を駆けるシマウマのように飛躍の年になることを願います。

（動物園長 茶谷）



1 東山へようこそ!新たな仲間達

北園のアメリカ大陸コーナーでは今年に入ってから南米エリアを中心に新たな動物達が動物園に仲間入りをしてきました。そんな彼らの来園時の様子を紹介できればと思います。

2 カピバラの来園

3月27日2頭のカピバラが来園しました。性別は2頭とも雌で搬入時は輸送してきたバリケンからなかなか出てきませんでしたが展示場に出た後はすぐに環境になじんで今ではのんびりと過ごしています。

8月には東山公園協会のサポーターから擬木のシェルターが寄贈されました。コンクリートでの基礎作りやシェルターの搬入作業などの工事が行われました。約200kgの重さのシェルターをユニックでつり上げ園路側からモート(堀)を越える方法で設置を行いましたがかピバラたちもあまり怖がることもなく順調に作業を完了させることができました。



3 ハクトウワシの到着

5月の下旬には和歌山県の「アドベンチャーワールド」から雌のハクトウワシ「サン」が来園しました。来園当初は隔離用のケージで過ごし検疫を受けていました。来園前のサンはバードショーに出ていたためかあまり人に対して警戒心が薄いように思われます。動物舎の水場の近くを自分の縄張り(?)に決めたようで、来園者からは間近で見ることができ、人気が出そうな予感です。

ハクトウワシ舎にはすでに雄の「ピィ」がいますが今のところ二羽の関係性は微妙なところです。闘争には至りませんが互いに距離をとりなかなか近づこうとしません。動物を搬入した際、先住の個体と同居させるときはいわゆる「見合い」を行ってから実施する必要があります。「サン」が引っ越してきてまだ半年なのでじっくりと時間をかけて「ピィ」と夫婦になっていくことを願います。



4 ジャガー搬入!

6月30日新ジャガー舎に待望の雄ジャガーが到着しました。高知県の「和の森わんぱくこうちアニマルランド」からやってきた彼の名は「ユウキ」。猛獣の搬入作業には普段の作業以上に緊張が伴います。動物の逸走や怪我(人間も動物も!)などがないように十分に準備し安全を確認しながら作業を行います。安全のため金属性の輸送檻(重たいです!)に入っている動物が暴れないように静かに素早く動物舎に搬入します。

動物舎の寝室に檻を搬入したら逸走防止のため動物用の扉と檻をベルトや鎖などでしっかりと固定します。

扉を開放するとユウキは静かに寝室に移動してくれました。その後も特に怯えたり興奮したりする様子もなく落ち着いていました。まずは一安心です。

その後のユウキは部屋の移動訓練を行い、展示場への放飼訓練は7月の中旬に行いました。名古屋の夏は今年も猛暑、暑い日が続くなかでの放飼訓練はなるべく動物に負担がかからないようにしてはいいけません。ジャガー舎は屋外展示場と屋内展示場の扉を開放して放飼をおこない無事一般公開を果たしナイトズーにも雌の「マヤ」とともに参加してくれました。

今後はプールのある展示室やもう一つの屋外展示場にも移動できるように訓練を続けます。そしてゆくゆくは「マヤ」とのペアリングを目指していきます。



5 オオアリクイの移動

7月には雌のオオアリクイ「エミ」が他園に転出となり、9月には新たに東京の「江戸川区自然動物園」から1歳の雌「アイリス」が来園しました。夏場の気温が高い時期の移動は動物にとっても負担が大きく神経を使います。輸送に使う車両も空調が完備しており、短時間でも動物の体に負担がかからないようにすることが大切です。

また同じ動物でも園館によっては与えている餌や給餌方法が異なる場合もあります。

来園当初はなるべく以前に過ごしていた園で与えていた餌を再現してあげることも重要です。「アイリス」はまだ親離れしたばかりの若い個体なので、これから順調に東山の環境に慣れていってくれることでしょう。



6 そして、新たな始まり

動物園の飼育員は毎日の動物の飼育作業はもちろんですが時々工事や動物の移動などの普段と異なる状況にも対応することがあります。また、新たに移動してきた動物たちは公開前に検疫や動物舎、飼料、他個体との同居といった来園以前と異なる飼育環境の変化があるため、普段以上に注意を払う必要があります。わずか半年の間に多くの新たな動物たちを迎え入れましたが彼らは東山での生活になじむ道半ばです。ゆっくりでも着実にその歩みを進めて東山動植物園の一員となっていくことを願っています。

飼育第二グループ3班 小林



もなかの お気に入り

コアラ舎にいる1番若いオスコアラの「もなか」という個体は独特な場所^{ふだん}で普段寝^ねています。木のてっぺん^{いす}を椅子にして体操座り^{また}のような体勢をして寝るのです。

他の個体は木の股を利用して寝ることが多いですが、もなかは木のてっぺんがお気に入りのようです。木に座りやすいようにおしりが丸くなっているコアラがほとんどですが、もなかはてっぺんに座りすぎておしりが平らになってしまっています。

「落ちないの?」「あんな所にいてなんで寝られるのかなあ」と来園者の方から心配の声が聞こえる時がありますが、もなかは爆睡^{ばくすい}です。

私も最初は落ちないのかドキドキして見ていましたがもう当たり前になりました。

もしみなさんが来園した際に、もなかが木のてっぺんで寝ていても心配無用です。



飼育第一グループ1班 古關

換羽期^{かんうき}のインコ舎

インコ舎の鳥たちはこの7、8月換羽期^{むか}を迎えていました。

繁殖期^{はんしょくき}である春を超えると、羽が新しいものに換わります。これを換羽^こといいま^かす。古い羽を捨て、新しい羽に換えることで飛びやすくなったり、保温性^{ほんしやうせい}や撥水性^{はっすいせい}を高めたりすることができるそうです。

ただ、インコやオウムは野生では飛ばないと餌^{えさ}を食べられず生きていくのが困難です。そのため一斉^{いつせい}に抜け換^{ぬか}わるのでは

なく徐々に^{じょじょ}に抜け換わっていきます。

そんな換羽期のインコ舎は鳥たちの羽^{さけい}で地面がカラフルになっていました。綺麗な状態の落ちて^さいる羽を見つけると少しテンションが上がっていましたが、その中でも写真の羽が個人的にお気に入りです。3枚とも、同じ種類の鳥から落ちた羽です。それぞれ生えている部位によって形状が違います。どの鳥の羽なのか、ぜひインコ舎に答えを確かめに来てみてください。



飼育第一グループ2班 堀場

まだまだ 暑いのでしょうか?

この号がお手元に届く頃^{ころ}はさすがに涼しくなっているのでしょうか?コレを書いてる今はまだまだ暑い日が続いてます。

動物達も自分で身体を舐めて気化熱で体温を下げたり、水飲み^なに手足を入れたり、獣舎^{じゅうしゃ}によってはプールがあってザブンと飛び込んだり、担当者から水をかけてもらったりと色々。やっぱり最強はエアコン付きの室内展示^{しやうし}でしょうか?

アクシスジカ舎には天井^{せんじやうき}に扇風機^{せんぷうき}が付いてますが、涼しいかは微妙^{びやう}……。

そんななか、ミストを運動場に設置^{せいち}してみました。水が霧状^{きりじやう}になって出てくるアレです。

始めは何か分からなかったようですが、そのうちに、この辺りは涼しいぞと気付いたのか、ミストの下付近で休んでくれるようになりました。

写真上部の白いローブ^{ろーぶ}みたいなのがミストのホースで、そこからミストが出ています。

1番初めに気付いたのは、角^{おす}の短い雄のエイキチでした。それから2〜3日で他個体達も気付いたみたいです。ミストの下じゃなくても、風に乗ってくるミストで少し離れてても涼しい場所を



見つけた個体もいます。

動物自身に依る暑さ対策や飼育係に依る暑さ対策で、来年の夏も乗り切りたいと思います。

飼育第一グループ3班 鈴木

国際 レッサーパンダデー

先日、9月20日は国際レッサーパンダデーでした。どんな日だと思いますか?レッサーパンダってかわいいよね!見てて楽しい!好き!そんなハッピーな記念日だったら素敵ですね。でも残念ながら違います。絶滅の危機にあるレッサーパンダの現状や保全について少しでも知ってもらえかけになれば、と制定された日(毎年9月の第3土曜日)です。

実は、この2日後9月22日は世界サイ

の日、その2日後24日は世界ゴリラの日でした。これらも同じように絶滅危惧種である動物たちを守るために制定された日です。最初に書いたようにこれらがハッピー記念日ならとっても楽しい毎日なんです。それぞれの日があればあるほど動物たちにはあまり良くない現状なのかなと考えさせられます。みなさんの好きな動物はどうでしょうか?世界〇〇の日、国際〇〇デーをきっかけに、いつもとは違った視点で動物たちについて考えてみてはいかがでしょうか。



飼育第二グループ1班 小林

レッサー スローロリスの移動

東山動植物園の夜行性エリアにはスローロリスが2種類飼育されているのはご存じでしょうか?一つはスダスローロリスで比較的動きが多いので姿をよく見ることができますが、もう一つはレッサースローロリスは暗い時でもあまり動きがなく私たちも餌を食べるとき以外あまり見ることがありません。東山のレッサースローロリスは2017年7月7日に来園したオスと2021年1月4日に来園したメスの2頭でしたが、展示室にはオスのみでメスとの仲があまりよくなかったため、メ

スは隔離室に分けられて飼育していました。このペアでの繁殖が難しいことから、今回オスを他園のオスと交換して新たに繁殖を目指すことになりました。そのためにはオスを輸送箱に入れなければなりません。がほとんど巣箱にいるので輸送箱に巣箱ごとに入れて送ることとしました。新たに輸送用の巣箱(写真展示室中央右)を用意しましたが全く入ることがなかったので急ぎよ今まで使っていた巣箱(写真展示室中央左)を少し小さくして無事輸送箱に入れて10月3日に送ることができました。



展示室



輸送BOX

この後新しいオスがやってくる予定で、繁殖に向けてペアリングしていく予定です。しばらくはメスが展示室にいるのでみられたらラッキーかも?

飼育第二グループ2班 中山

新しく仲間が 増えました

ふれあい広場で暮らすアルパカのポコは、2025年3月27日に4歳でニュージーランドから東山動植物園にやって来ました。検疫と夏に向けた毛刈りを終え、5月13日からふれあい広場での展示が始まりました。

アルパカは、ペルー南部を中心に、アンデス高地でその優れた毛を利用するために古くから家畜として飼育されています。

ポコは臆病で恥ずかしがり屋な一面が

ある一方で、好奇心旺盛というギャップのある性格です。群れで暮らす動物らしく社交的でもあり、他の個体や人に興味を示します。水浴びや日向ぼっこが大好きで、展示場に出るとすぐに気持ちよさそうに日向ぼっこする姿が見られます。



ふれあい広場 塚本

動物園の冬といえば、冬毛をまとったもふもふのタヌキ、床暖房で温まるライオンなどですが、動物病院の冬といえば、そうです、鳥インフルエンザです。今回は、鳥インフルエンザウイルスの侵入をいかにして阻止するかについてお話します。

鳥インフルエンザとは、A型インフルエンザウイルスによる鳥の感染症を指しますが、厄介なのがその他の動物にも人に感染します。そして、感染を繰り返すうちに、ウイルスが強い病原性を持ってしまふことがあります。高病原性鳥インフルエンザに感染した鶏の死亡率はほぼ100%とされています。

冬が近づき、日本で鳥インフルエンザの発生が確認されると、環境省から通知が届きます。この通知によって、動物園は対策を始めます。動物園は、鳥以外にもたくさんの動物が生活をし、スタッフや来園者など人も出入りをします。動物園に関わる全ての生き物を守るため、鳥インフルエンザウイルスの侵入を阻止する対策を行っています。「持ち込まない、広げない、近づかない」が大事です。特に感染の入口となる鳥に感染させないことが大事であるため、東山動植物園では次の対策を行っています。

1.消毒マットの設置

動物園に出入りする全ての人から車まで、必ず消毒マットを通過します。ここで園内にウイルスを持ち込まないようにします。



消毒槽で靴底を洗浄する様子

2.消毒槽の設置

全ての動物の飼育管理スペースに入る際には、消毒槽で靴底の消毒をします。鳥インフルエンザに限らず他の感染症や寄生虫を持ち込まないためです。

3.鳥の獣舎に入るための長靴交換

鳥の飼育管理スペースに立ち入る際は、専用の長靴に履き替えます。鳥の飼育スペースにウイルスを持ち込まないようにするためです。



鳥獣舎で長靴交換

4.鳥に接近しない

冬になるとペンギンやフラミンゴなど鳥の獣舎の周りに臨時的なポールがあるのはご存知でしょうか。これは鳥と人が近づいて、お互いに鳥インフルエンザに感染しないようにするためのものです。

5.鳥のお引越し

鳥インフルエンザは鳥の中でも感染しやすい種類がいます。当園ではシジュウカラガンが該当します。鳥インフルエンザの警報が発令されると古代池から動物病院に隔離されます。



シジュウカラガン

当園では2016年に鳥インフルエンザ発生により複数の鳥を失っています。その後、鳥インフルエンザの発生がないのは、動物園に関わる皆様のご協力によるものです。これだけの対策をしても発生を100%防ぐのは難しいことですが、日々の対策が大事です。ご不便をおかけしますが、今後とも何卒ご協力をお願いいたします。

(指導衛生グループ 萱野)

【動物取扱業登録】

名称:名古屋市、事業所の名称:名古屋市東山総合公園、事業所の所在地:名古屋市千種区東山元町3-70、動物取扱業の種別:展示、登録番号:第0701027号、登録年月日:2007年6月1日、登録の有効期間の末日:2027年5月31日、動物取扱責任者:茶谷公一

動物たちをそっとささえる

東山動植物園

Higashiyama ZOO & BOTANICAL GARDENS

応援定期預金



名古屋銀行では、「いのちつなぐパートナー」として毎年、動物たちのえさ代等にお役立いただく寄付を実施しています

抽選で
あたる!!
PRESENT



名古屋銀行
オリジナルツアー
10グループ(1グループ最大5名さま)



東山動植物園
オリジナルグッズ
50名さま



●8月15日と2月15日を基準日として、東山動植物園応援定期預金に10万円以上の残高があるお客さまを対象に抽選を実施しています。※窓口でのみお申し込みいただけます(東京支店、大阪支店、インターネット支店、ATM、ローンセンター、各プラザを除く)※賞品は選べません※A賞・B賞の内容は、予告なく変更・中止する場合があります

名古屋銀行は
東山動植物園を
応援しています



名古屋銀行



名古屋銀行は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



コアラ

KOALA

栄養価の低いユーカリが主食。
一日の約20時間を寝て過ごす。

2本の足で立ち上がって
パンザイしているのは
威嚇をしているとき。



RED
PANDA



ニシゴリラ
WESTERN
GORILLA

じつはおとなしく、
性格は慎重派。

SUMATRAN
ORANGUTAN

木の上で暮らす動物の中で
一番大きく、両手を広げると
2mを超えることも。



スマトラオランウータン



スマトラ
SUMATRAN
TIGER

ネコ科としては珍しく水を嫌わず
泳ぐこともあり、木に登ることもある。

読者の声 ~73号アンケートより~

他と比べて比較的安価に設定されている入園料のおかげで、気軽に何度も訪れることができます。園の運営は厳しいと思いますが、できるだけ低料金を維持してほしいです。

行く度、個体それぞれの様子が違って楽しいです。毎日の飼育がんばって下さい。

コモドオオカゲが好きでよく見に行ってます。



動植物園には所々に休憩場があって助かります。

表紙のマンドリルの赤ちゃんがとてもかわいらしく母親のニコが大切に抱いているところに心が温まりました。



いつも夫婦で通っています。新しく来たスマトラトラ、ジャガーを見て嬉しいです。



忙しくて動物園に足を運べない時も公式ブログや配信動画でたくさんいやされます。

アジアゾウが5頭それぞれに愛らしく、飼育員の方々との関係がとても良いのを感じられて良かったです。

バードホールで鳥たちとの距離の近さに驚きました。

情報誌「ひがしやま」はどれもすてきな記事です。



いつ行っても季節の花が咲いていて、子供も大人も楽しめるイベントがたくさん。



ひがしやま 74 号のクイズの答え

Q 秋の七草といえば、ハギ、ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、キキョウとあともう一つは何でしょうか。



- ① ナズナ
- ② フジバカマ
- ③ スズナ

A

正解は
②
フジバカマ
でした。

東山動植物園 ＊北園＊

大観覧車

名古屋の街を
みわたそう



遊園地

ジェットコースター

風を切って
走る!



●営業時間10:00～16:50(のりもの券の発売は16:40まで) 営業時間を変更する場合があります。

★アトラクション	利用料金	★アトラクション	利用料金	★アトラクション	利用料金	★アトラクション	利用料金
☆ミラーハウス	120円	☆モノレール列車	240円	☆大観覧車	360円	☆くるくるキリン	240円
☆ふしぎたんけんの館	240円	☆フラワーストーム	360円	☆ハニービー	240円	☆スロープシューター	360円
☆メリーゴーランド	240円	☆くまさんコースター	240円	☆ビックリハウス	240円	☆フライングイーグル	360円
☆ティーカップ	240円	☆コアラ列車	240円	☆ニューバイキング	360円	☆ジェットコースター	360円
						☆レッドバロン	360円

*1Dayパスポート・お得なチケット及びアトラクションの利用制限など
詳しくはホームページをご覧ください

URL: <http://www.higasiyama.jp/>



Café North Garden

カフェ ノース ガーデン



shop North Garden

ショップ ノース ガーデン



●動物ソフト3種類



●コアラカレー



●オリジナルコモドオオトカゲグッズ

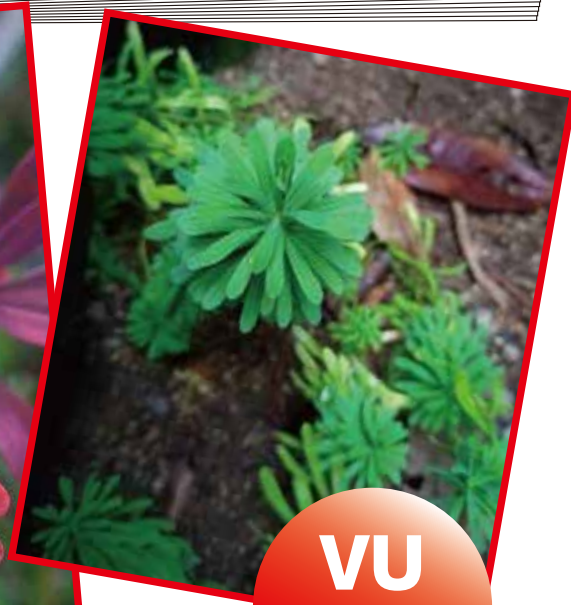


●ジオラマランチチョコ

レッドリストとは、IUCN(国際自然保護連合)が刊行している、世界で絶滅の恐れがある野生生物種のリスト。各国の政府機関や地方自治体等で独自に作成している同様のリストもレッドリストと呼ばれる。日本の環境省レッドリスト2025において、2,222種(維管束植物)が絶滅の恐れのある種として掲載。

ハギクソウ

分類：トウダイグサ科
学名：Euphorbia octoradiata H.Lév. et Vaniot
分布：愛知県渥美半島
絶滅危惧ランク：絶滅危惧II類 (VU) 環境省 2025



VU
2025環境省
レッドリスト

絶滅 (EX/EXTINCT)	絶滅が確認された
野生絶滅 (EW/EXTINCT IN THE WILD)	野生では絶滅した
絶滅危惧IA類 (CR/CRITICALLY ENDANGERED)	絶滅寸前の状態にある
絶滅危惧IB類 (EN/ENDANGERED)	近い将来絶滅する恐れが高い
絶滅危惧II類 (VU/VULNERABLE)	絶滅の恐れが高い

ハギクソウは、トウダイグサ科の夏緑性の多年草です。茎の先端に、細い葉が密につき、上から見るとまるでキクの花のように見えることから「ハギクソウ」と和名がついたといわれています。秋から冬にかけて、赤や黄色に紅葉した葉は本当にキクの花のように見えます。近い植物(同じユーフォルビア属)としてクリスマスに飾られるポインセチアがあります。華やかな雰囲気のパインセチアとは全く違いますが、美しい葉(ポインセチアは苞葉)を愛でる点は似ていますね。

過去には、東海地方や、九州地方の海岸にも見られたといわれているハギクソウですが、今は、日本で渥美半島にのみ分布する貴重な植物です。

減少の要因としては、海岸沿いの観光開発や砂防工事による生育地の破壊、あるいは砂防のため造林された黒松の成長に伴う砂丘の消失など、ハギクソウの生育できる環境が極めて少なくなったこと、があげられています。

東山動植物園では、バックヤードで生息域外保全として大切に育てていたハギクソウの株の一部を、今年9月に海岸の植物の展示エリアに植栽しました。星が丘門から、トンネルを抜けてしばらく歩くと、左側に岩組の間に海岸の植物(ハマユウやハマビワ、ハマボウなど)が展示されているエリアです。

紅葉するまでは、全く目立たない植物ですが、美しく紅葉した姿を見ると、きっと誰もが魅了されることと思います。ハギクソウを知ること、私たちの生活の場の近くにも絶滅に近い植物があることを知っていただき、絶滅に瀕した生き物の今後について考えるきっかけになればと思います。

(植物園 今井田)

冬のおすすめ植物

晩秋から初冬の季節の移り変わりにより、紅葉で赤や黄色で染め上げていた木々の葉も落ち葉となっていきます。植物園においても^{やゆえん}也有園から^{おくいけ}奥池、^{ほし}星が丘門までの赤や黄色で色づいていたイロハモミジやイタヤカエデなどのカエデ類の葉もすっかり落ち、植物園の森も冬の装いに^{よそお}変化していきます。今回は植物園での歴史を感じる旧兼松家の武家屋敷門の紹介や冬の風物詩、付近に咲く真冬の可憐な花を紹介します。

●旧兼松家の武家屋敷門

植物園の也有園の入口にはいかにも^{そうごん}荘厳な門があります。この門は旧兼松家の武家屋敷門です。旧兼松家の祖の兼松又四郎正吉は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えました。もとは名古屋市東区あった尾張藩士兼松家の屋敷門で、高さ4.7m、幅、12.5m、奥行き3.7mの木造の長屋門です。建造は江戸末期とされており、大正8年まで兼松家の屋敷内で使用されていました。昭和42年5月に名古屋市に寄付され、昭和42年10月4日に改修中の植物園也有園に移築・棟上げがされ、11月2日に一般公開されました。

●植物園のお正月の風物詩 葦の門松

「葦の門松」のいわれは、兼松又四郎正吉が織田信長に仕えていた1570年の姉川の合戦(滋賀県長浜市)において陣中で正月を迎えた折、部下に河原で生えていた葦を刈らせ、真竹を切って、質素な門松を立てて武運を祈ったことからです。姉川の合戦では決着がつかなかったものの、これに引き続き朝倉攻めは、信長軍の大勝利となりました。以来、吉例として兼松家では、代々葦の門松を正月に飾り祝ったとのことです。植物園でもこれを踏襲し、毎年、正月に葦の門松を立てています。



大正時代の旧兼松家のお正月



令和時代の植物園のお正月

●武家屋敷門の右にあるソシンロウバイ

ソシンロウバイは花の少ない1~2月頃、鮮やかな黄色い花をつけてくれます。花の大きさは直径2cm程度で下向き、横向きに咲きます。中国原産で日本には江戸時代の初頭に渡来しました。和名のロウバイは漢名の(臘梅)の音読みであり、花弁の色が蜜蠟の色に似ていることから由来したという説があります。



武家屋敷門とソシンロウバイの葉

●早春の小道でロウバイとソシンロウバイの花の違いを観察してみましょう

武家屋敷門から少し離れますが植物園の合掌造りの家の脇を通って、日本庭園を過ぎると、早春の小道があります。ここはマンサクやヒュウガミズキやトサミズキなどの早春花木を集めているところです。ロウバイとソシンロウバイも早春を楽しませる花木として並んで植えられており、両方の花を同時に見ることが出来ます。ロウバイは花芯(花の中心)が暗紫色なのに対し、ソシンロウバイは花芯が花弁と似た鮮やかな黄色です。ソシンロウバイは「素心臘梅」と記され、素心とは芯に濁りが無いとの意味でつけられています。ぜひ植物園早春の小道で可憐な黄色い花を比較して観察してみてください。



ロウバイ (ロウバイ科)
Chimonanthus praecox



ソシンロウバイ (ロウバイ科)
Chimonanthus praecox fo. concolor



植物管理人だより

オガサワラグワの 実りの季節です

オガサワラグワのライフサイクルは少し変わっています。9月の終わりごろ葉が黄色くなり落葉し始めます。そして10月の終わりから花を咲かせ、12月頃実が熟し始めます。

9月に落葉。初めてその姿を見たときは聞いてはいたものの驚きました。本州でよく見かけるヤマグワは11月黄葉が始まり12月に落葉します。しかしオガサワラグワは寒くもない季節に落葉するのです。その落葉には目的があるようです。9、10月は台風の季節。オガサワラグワの自生地のおがさわら小笠原諸島は台風の通り道でもあります。勢力の強い亜熱帯の台風から身を守



(オガサワラグワの実)

るのに落葉し抵抗を減らすことはオガサワラグワにとって都合だからなのです。そして10月後半の開花。秋の少し乾いた風で花粉を飛ばし受粉。オガサワラグワの環境に合わせ進化したライフサイクルに関心してしまいます。

小笠原諸島ではオガサワラグワの生存が危機的状况で一個体ずつナンバリング



(オガサワラグワの雄花)

され見守られています。植物園で栽培している個体は母島で自生している株のクローンです。

名古屋と小笠原諸島、気候は違いますがライフサイクルはほぼ同じです。母島の親株も花が咲き実がなっていることを願うばかりです。

指導園芸班 大須賀

冬のバラ園

東山動植物園のバラ園は冬を迎え、秋のにぎわいも過ぎてすっかり静かになりました。

花が咲かないこの時期、園内はひっそりとして見えます。

実は、作業員にとってのこの時期は、とくにバラ園でたくさんの作業があります。

つるバラの枝の麻紐をほどいてアーチやフェンスに誘引します。つるバラは自力で巻き付く性質を持たないため、人の手で誘引しなければいけません。フェンスの補強も場合によっては行います。木立のバラも冬の剪定をし、ついでに落ち葉も片付けて病原菌からの感染を少しでも防御します。さらに寒肥もし、株の移植・植替えも



するなど、寒風のなか、春に向けての大切な作業を着々と進めていくのです。多くのバラがあるため、協力して一斉に作業を行なうことから、作業時間もバラ園に確保する必要があります。

バラの切花はおおよそ1週間の日持ちといわれていますが、何か特別なときの1本や花束の贈りものとしては、やはり喜ば



れます。たとえ1本でも何か特別な感動があります。

今はまだ寒いですが、あたたかくなった頃には、また次々に咲いてくれると思います。

そのときは、ぜひ、再びたくさんの方に、見に来ていただけたら嬉しいです。

緑地造園班 渡部

桶（おけ）と樽（たる）

桶は円筒形の容器のことをいい、木製の他金属製やプラスチック製のものもあります。ここでは植物材料から作られる、もっぱら木製の桶について紹介します。

桶には曲物桶と結桶があります。どちらもスギ、ヒノキ、サワラなどが材として使われますが、曲物桶は薄く削りとった材を円筒形に巻き、合せ目をサクラやカバ類の皮の紐で縫い合わせ、底を付けたものです。一方、結桶は鉋で割裂して作った短冊形の側板を円筒形に並べて竹などの箍（容器の胴回りを締め付ける部品）で締め、底を入れたものです。更に側板の木取り方法には板目取りと柂目取りがあり、板目取りは丈夫で水も浸透しないため漬物桶や水桶などに用い、柂目取りは目が揃ってきれいなので飯櫃やすし桶、手桶などに用います。歴史的には曲物桶の方が古く、奈良時代の平城京跡から数多く出土しています。

中世までは曲物桶が水、油などの液体、穀物や野菜、飯や饅頭などの食物から衣類まで、生活用のもの入れとして広く使われていました。これに対し結桶は鎌倉時代末ごろに出現し、室町時代に入って急速に普及しました。桶と樽がよく似たものとなったのもこの頃からです。それまでの樽は主に酒の注器でつば形や太鼓形でしたが、結桶に注ぎ口を付け蓋を固定した、結桶由来の樽が作られるようになりました。曲物桶と比較すると結桶、結樽は強度、密閉性、耐久性などの点で格段に優れ、また大きな容器の製作が可能なことから、桶、樽の用途は醸造業と海上輸送の面で飛躍的に拡大しました。しかし昭和に入ってから金属製、更には合成樹脂製の容器へと変わり、木製の桶、樽は急速に減ってしまいました。

いつも思うことですが、先人たちの知恵と工夫には、ただ感服するばかりですね。

（植物園長 下総）



植物園講習会 「身近な自然を見つめよう(秋編)」を開催しました

令和7年10月11日に、講習会「身近な自然を見つめよう(秋編)」を開催しました。当日はあいにくの雨となってしまいましたが、事前申込みいただいた6組のご家族(16名)に参加いただきました。

前半は植物園で活動されているボランティアガイドさん3名に案内していただき園内散策を行いました。参加者は3グループに分かれて、ガイドさんの解説を聞きながら圭介の庭、スイレン池、宿根草園、也有園を歩きました。雨の中歩くのは大変だったかもしれませんが、雨に煙るスカイタワーといった雨ならではの景色を楽しむことができました。



後半は植物会館の研修室でどんぐり遊び(どんぐり大相撲 秋場所)を行いました。アベマキやシラカシなどのどんぐりに顔を書いたり、好きな色を塗ってどんぐり力士の完成です。

できたどんぐり力士を使ってトントン相撲で遊びました。大きいどんぐりが強い!...とは限らず、小さいどんぐりが土俵の中を上手く動いて勝つなどの名勝負が繰り広げられました。



今回の講習会が植物に興味を持ったり自然に親しんでもらえるきっかけになれば嬉しく思います。

裏表紙/オガサワラビロウ *Livistona boninensis* (Becc.) Nakai
オガサワラビロウは小笠原諸島固有のヤシ科ビロウ属の植物で、冬に深緑色の楕円形の実を付けます。果実は長く長期間実っているので、植物園では年間を通して中央ヤシ室で観察できます。(文/近藤)

ひがしやま
75号 2025 冬

発行所/公益財団法人 東山公園協会
〒464-0803 名古屋市千種区田代町字瓶杓1-62
TEL 052-782-2111(内線340)

協力/名古屋市東山総合公園
発行日/令和7年12月19日



オガサワラビロウ

H I G A S H I Y A M A

Winter
2025

ひがしやま 75

名古屋市東山動植物園情報誌



東山動植物園
Higashiyama
ZOO & BOTANICAL
GARDENS

